

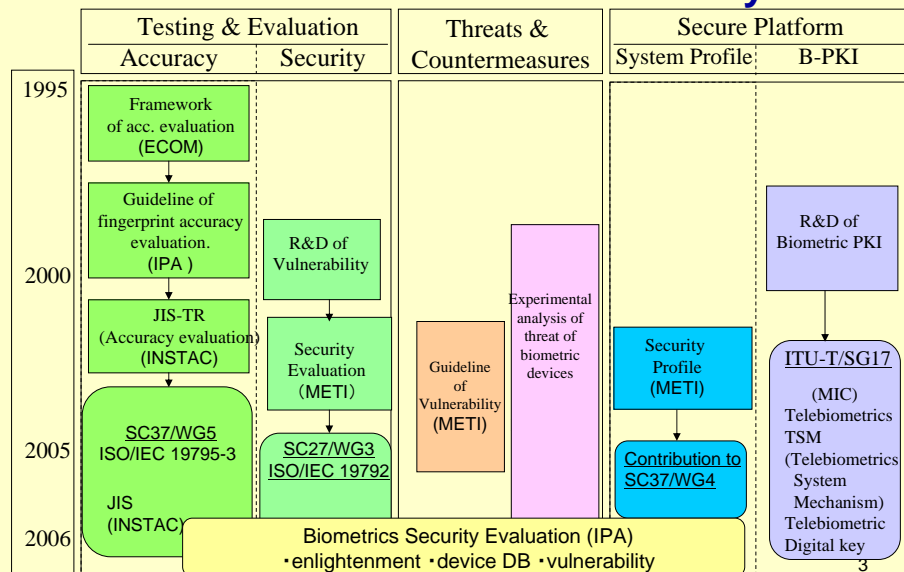
バイOMETリクスセキュリティ の課題

2007年3月9日
早稲田大学理工学術院
小松 尚久

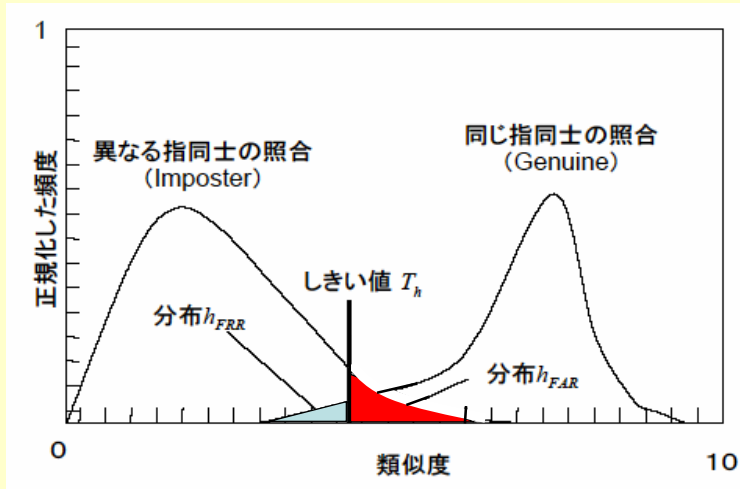
目次

1. バイOMETリクス認証の特徴
2. バイOMETリクス認証の運用要件
3. バイOMETリクスの脆弱性
4. 諸外国の取り組み
—韓国における研究開発—

Japanese standardization activities related to biometrics Security

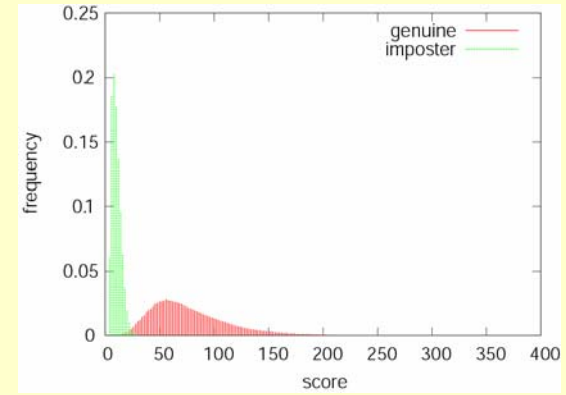


1. バイOMETリクス認証の特徴



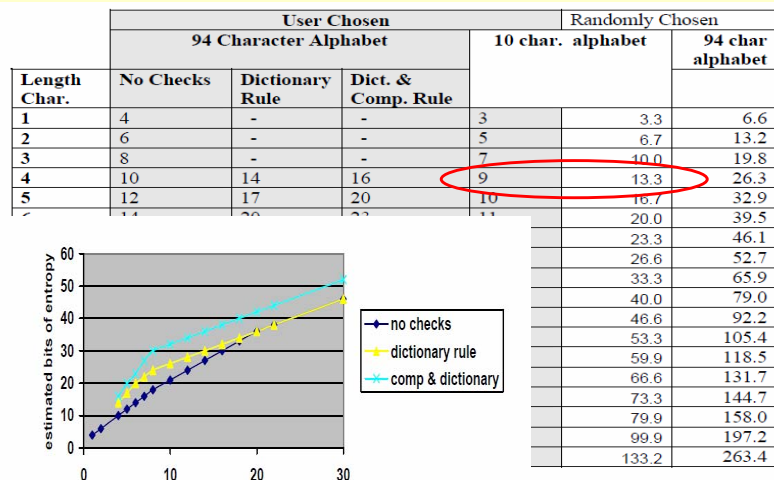
類似度の分布

指紋照合スコアの分布



指紋データ	300枚 × 4指 (登録1指, 照合3指で4通り)
照合アルゴリズム	NFIS2 (NIST Fingerprint Image Software)

Estimated Password Guessing Entropy in bits vs. Password Length



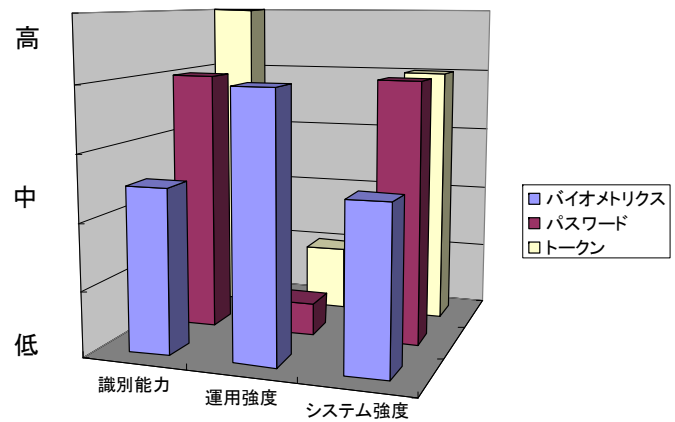
NIST Special Publication 800-63
Version 1.0.1

認証手段の比較

評価項目	パスワード	トークン	バイオメトリクス
識別能力	高 ●PWD空間が大 ⇒高いエントロピー	極めて高 ●PWDを保存	中～高 ●モダリティに依存 ●エントロピーはFARで制限
運用上の強度 ヒューマンエラー	弱 ●短いPWD ●推定容易なPWD ●メモ書き ●漏洩 ●社会工学的攻撃	弱 ●紛失 ●盗難 ●いつ紛失、盗難したかは分かる	強 ●本人の意識に影響しない ●管理の依存度が低い
システムの強度	強 ●長い文字列 ⇒高いエントロピー ●暗号化の適用 ●技術的強度の向上 ⇒運用強度の低下	極めて高 ●コピーが困難 (物理的条件) ●改ざんが困難 (物理的条件、暗号の適用) ●攻撃には高度な専門知識、技術が必要	中 ●なりすまし ●テンプレートの解析 ●登録データの取得

P. Statham: "Threat Analysis How Can We Compare Different Authentication Methods?", BC Conference (2005.9).

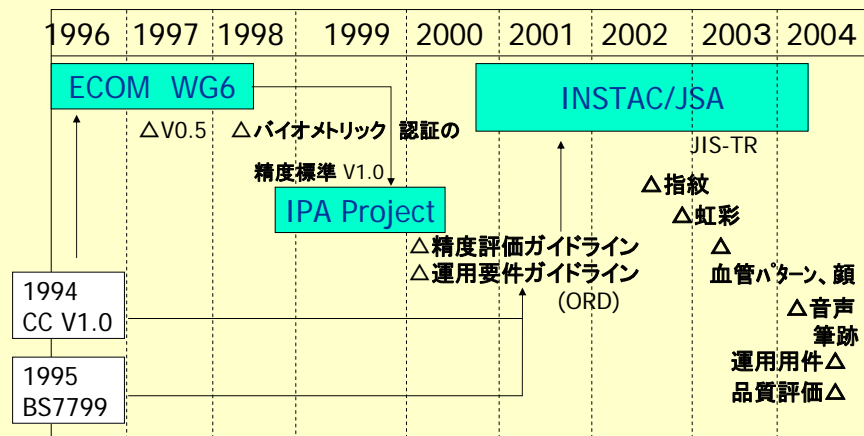
個人認証手段の比較



P. Statham: "Threat Analysis How Can We Compare Different Authentication Methods?", BC Conference (2005.9).

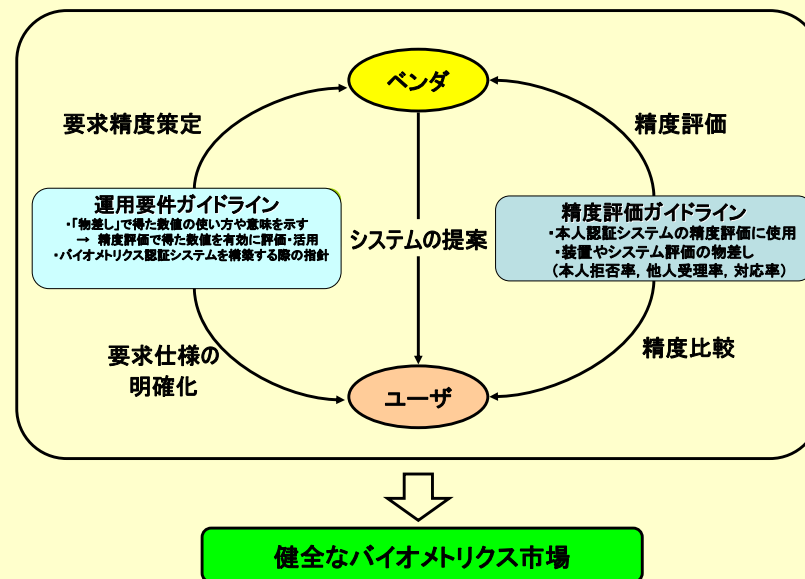
2. バイオメトリック認証の運用要件

日本における標準化活動



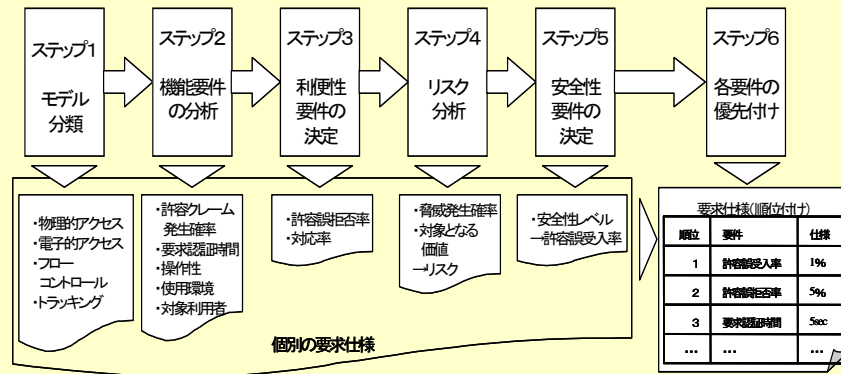
ECOM: Electronic Commerce Promotion Council of Japan
IPA: Information-technology Promotion Agency, Japan
INSTAC: Information Technology Research and Standardization Center

CC: Common Criteria
BS7799: British Standard 7799
ORD: Operating Requirements Decision



健全なバイオメトリクス市場

運用要件の決定フロー



機能要件分析

モデル	Example	考慮すべき機能要件
アクセスコントロール	[Physical] ・入退室管理 ・入国管理 ・Security box	・スピード(認証時間) ・対応率 ・使用環境 ・許容クレーム発生確率 ・操作性
	[Electronic] ・ネットアクセス ・DBアクセス	・操作性 ・対応率 ・スピード ・許容クレーム発生確率
フローコントロール	・ワークフロー ・リモートバンキング	・操作性 ・対応率 ・スピード(認証時間) ・許容クレーム発生確率
トラッキング	・勤怠管理	・操作性 ・対応率 ・使い勝手

安全性要件の決定

$$0.14\% = \frac{\text{許容損害額 } 300\text{万円}}{\text{損害 } 100\text{万円} \times 36.5\text{回/年} \times (\text{誰でもアクセス可能: } 1) \times \text{IDの盗み見可能: } 1 \times 60\text{回/10分}}$$

PFAR: 許容他人受入率

PR: 許容できるリスク

PV: 保護されている価値

IGIAF: 最初のゲートにおける不正アクセス頻度

IABMR: 不正認証阻止失敗率

IDR: ID既知率

NPAA: 認証可能回数

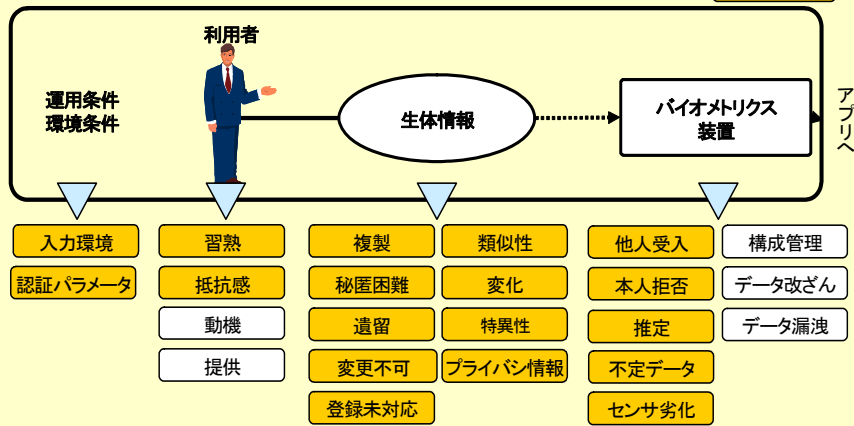
ATM: アクセス1,000件/日
認証可能時間10分
所要認証時間10秒/回
犯罪発生率 1/10,000

3. バイオメトリクスの脆弱性

バイOMETRICSの脆弱性分類

バイOMETRICSシステム

精度予測困難



凡例

バイOMETRICS特有の脆弱性 一般的な脆弱性

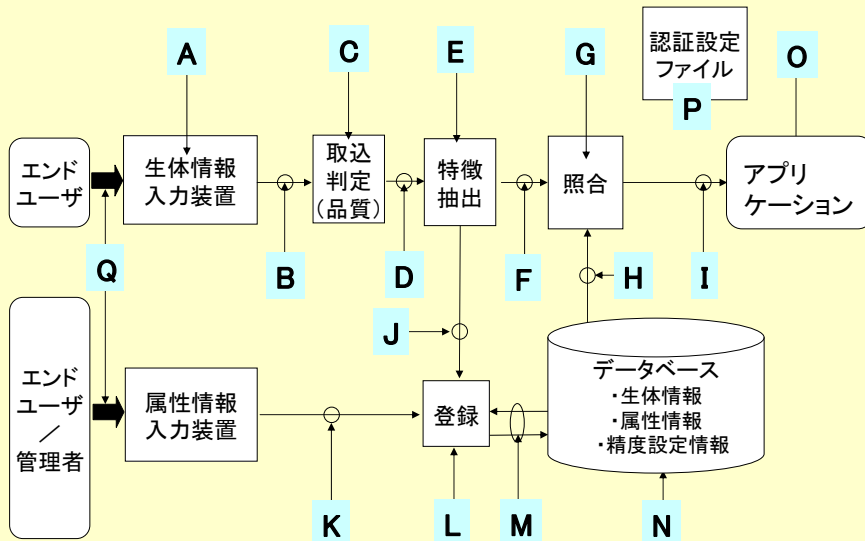
平成15年度基準認証研究開発事業成果報告 17

バイOMETRICS特有の脆弱性

- バイOMETRICS特有の性質に起因する脆弱性
 - 生体情報は意識的な秘匿が困難
 - パスワードやICカードは意識的に秘匿できる
 - 生体情報を無限に作り出すことはできない
 - パスワードや秘密鍵は作り変えが可能
 - 生体情報は入力の度に化する
 - 生体情報は個人情報のひとつである
- 脆弱性の程度がバイOMETRICS特有の脆弱性
 - 生体情報の複製の難易度
 - パスワードはコスト0, ICカードはコスト大
 - 利用者の習熟による精度の変化
 - センサ(入力装置)の劣化による精度の変化
 - 汚れなどにより比較的短期間に精度劣化を引き起こす

三村氏(日立製作所)講演資料 18

バイOMETRICS認証のモデル例



IPA研究会資料 19

各プロセスで考えられる攻撃例

	脅威	事例
A	・偽の情報提示	・偽造物による照合
	・デバイスレベルでの再生	・遺留物利用, 素子への直接入力
B	・生体情報の再生	・電子的な再利用
	・センサ情報の改竄	・電子的な改竄
C	・取込判定部の改竄	・偽造物の入力 ・低品質データの入力(誤一致しやすい) ・部分的なデータのみ(小面積)
D	・取込後の生体情報の再生・改竄	・電子的な再利用
E	・特徴抽出部の改竄	・特定条件で特定特徴データを出力するモジュール ・他人と一致しやすいデータの出力
	・特徴抽出アルゴリズムの脆弱性	・特定条件で他人受入/本人拒否を起こす
F	・特徴データの不正変換・改竄	・特徴データの差し替え ・特徴データの再利用 ・他人と一致しやすいデータとの差し替え ²⁰

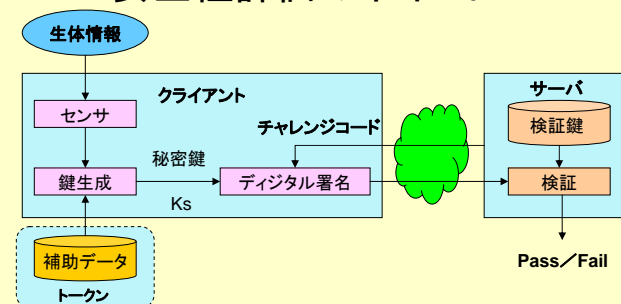
IPA研究会資料

テンプレート保護の必要性

- エンドユーザの生体情報管理能力
ハイエンドの利用形態では生体情報は高いセキュリティレベルで管理される。
エンドユーザは実行可能か？
- 管理すべき生体情報
ローエンドの利用形態においてもハイエンド利用と同じ生体情報が使用される。

22

バイOMETRICS暗号のシステム構成要素と安全性評価のポイント



1. 補助データからの生体情報の再構築の困難さ
2. 補助データからのKsの推定の困難さ
アルゴリズムによっては、ダミーデータの選択・決定方法に依存し、ダミーデータの量とのトレードオフとなる(例えば、Fuzzy vault)。
3. 補助データが他人に使われた場合にKsが生成される確率と、本人が生成できない確率
FARとFRRのトレードオフと同様の関係。アルゴリズムによっては、Ksの鍵長にも依存。

23

磯部氏(日立製作所)講演資料を参照

IPA バイOMETRICS・セキュリティ評価に関する研究会 (2006.3~)

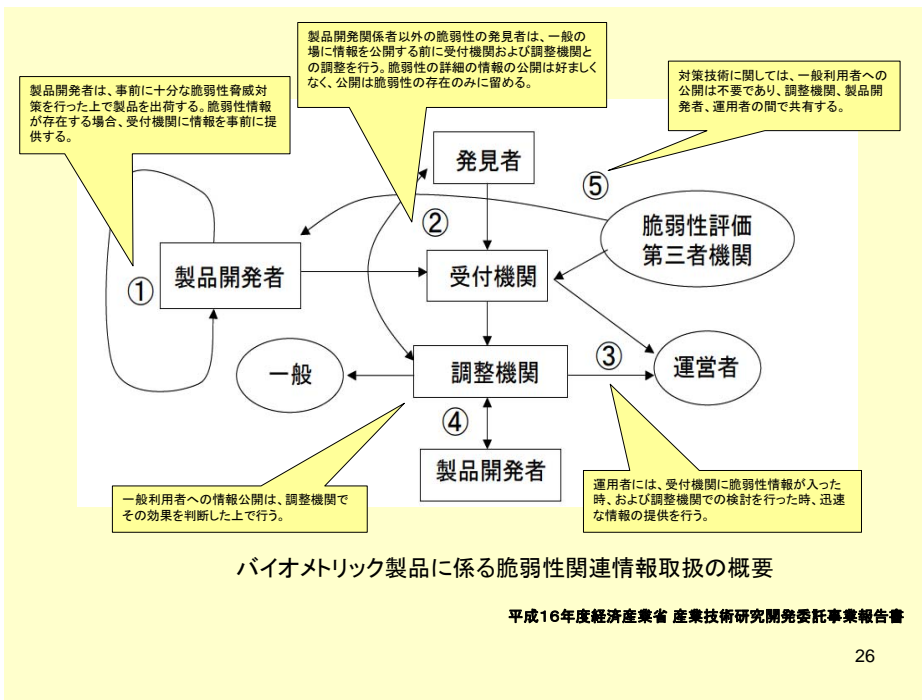
- 最近のバイOMETRICS認証技術の応用状況は、局所的な入室管理などでの利用から、多国間でのセキュリティ確保のためパスポートへの指紋採用、日常生活でのIT化に伴い銀行のATMでも「静脈認証」が開始されるなど、更に拡大傾向にある。
- 現在、バイOMETRICS製品はモダリティ毎に多くの製品があるが、製品を導入するために参考となる資料は、ベンダが作成したカタログに頼らねばならない状況である。現状では、ユーザは簡単に製品比較が行えない状況にある。
- このため、本研究会では、
 - 現状でバイOMETRICS認証技術や、これを用いた製品の実態を調査し、ユーザがバイOMETRICS認証技術の特性等について、比較分析を可能とするデータベースのコンテンツ作成及び継続した情報更新方法等についてとりまとめる。
 - バイOMETRICS認証技術は、パスワード、暗号等を用いた認証技術と異なり、認証精度や本人認証のためのアルゴリズム等において、独特のセキュリティ上の課題がある。このため、本研究会では、バイOMETRICS・セキュリティの観点から課題と今後取り組むべき方向性についても検討する。

24

IPA研究会における検討課題

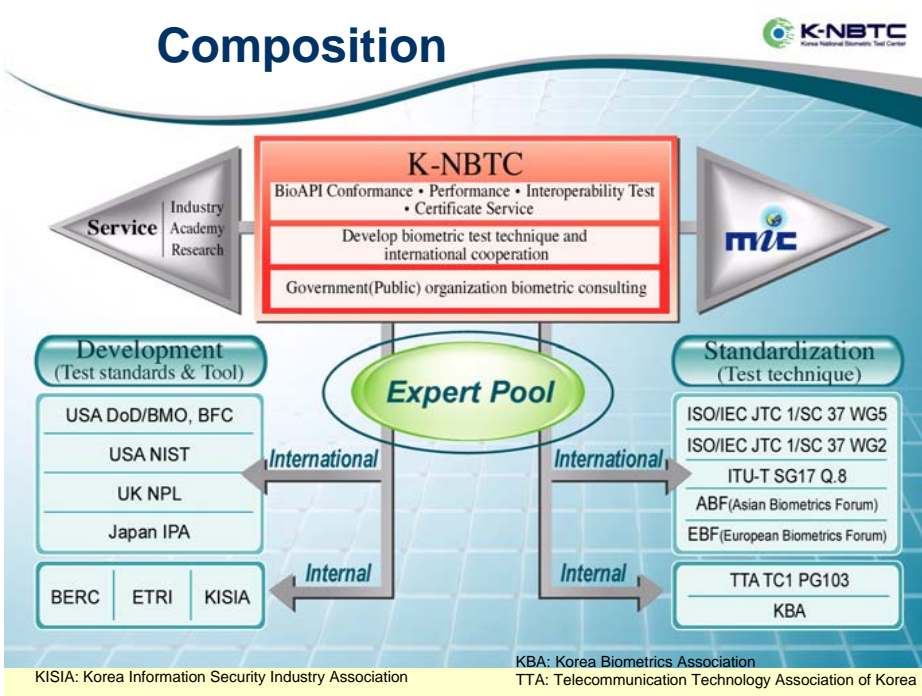
1. ユーザへのバイOMETRICS・セキュリティの普及に向けた取組み
2. バイOMETRICS製品データベースの構築・公開
3. ガイダンスや注意事項集などによるバイOMETRICS情報の提供
4. 脆弱性情報の取り扱い
5. 第3者機関による精度評価

25



4. 諸外国の取り組み — 韓国における研究開発 —

27



BERC Backgrounds

- History**
Established on **July, 2002** as a government supported Engineering Research Center.
- * ERC (Engineering Research Center):
Korea Science Foundation establishes 3~5 ERCs/year after evaluating proposals from all areas in engineering.
(100万ドル/年の資金援助)
- Objectives**

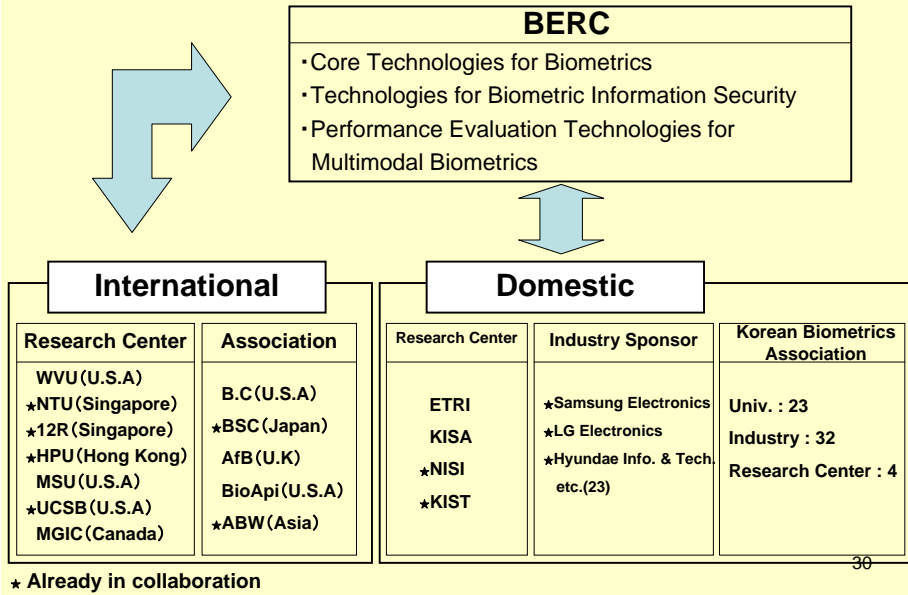
Research on new technologies on biometrics

Education for academic and industrial experts

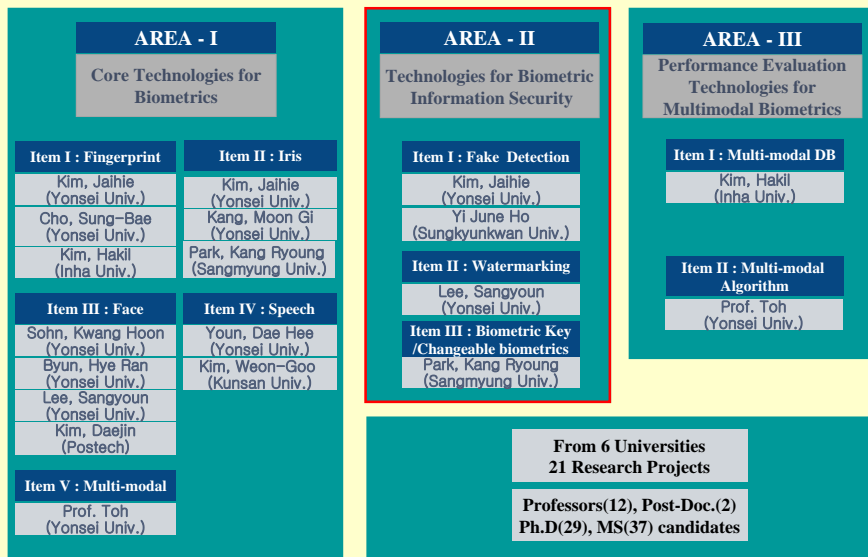
Collaboration with industry and other domestic/international research centers

BERC提供資料 29

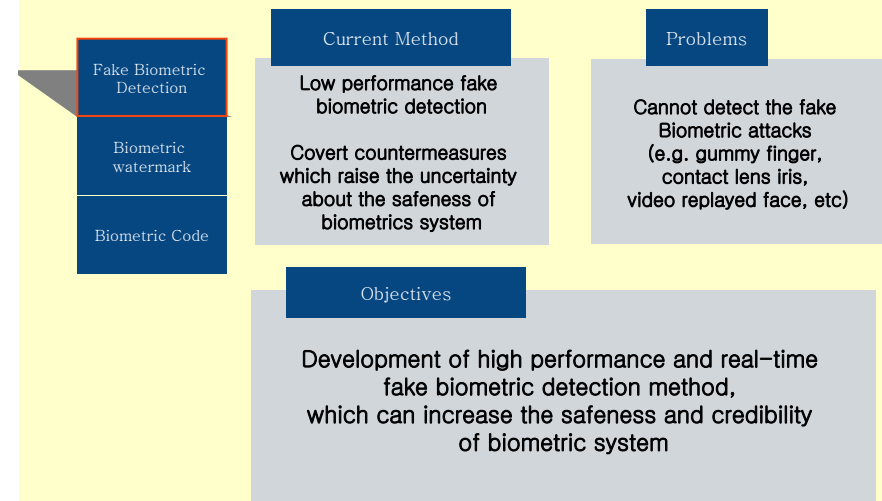
Research Collaboration



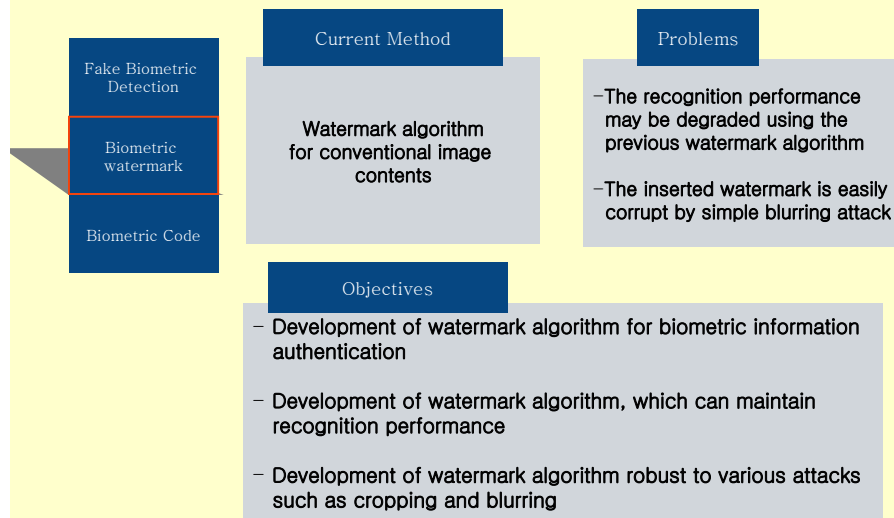
2nd stage Research Members (2005. 3~2008. 2)



Area II : Technologies for Biometric Information Security



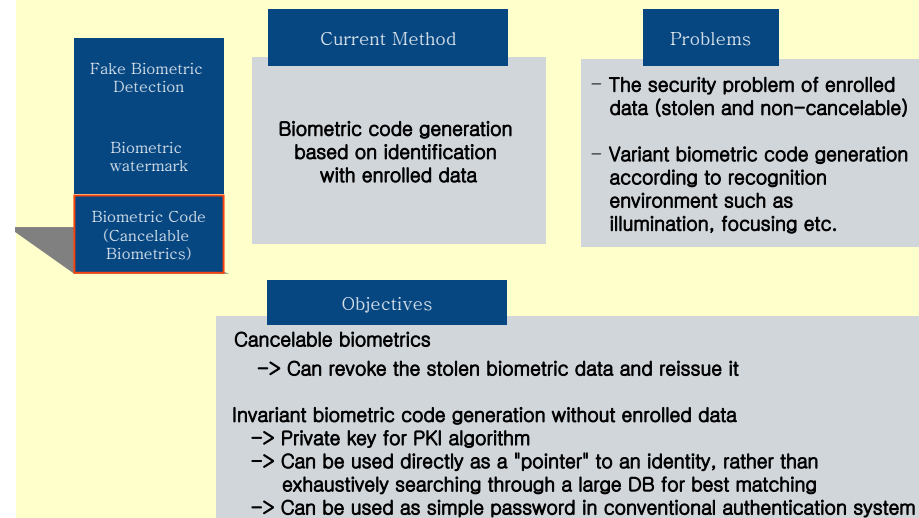
Area II : Technologies for Biometric Information Security



BERC提供資料

34

Area II : Technologies for Biometric Information Security



BERC提供資料

35

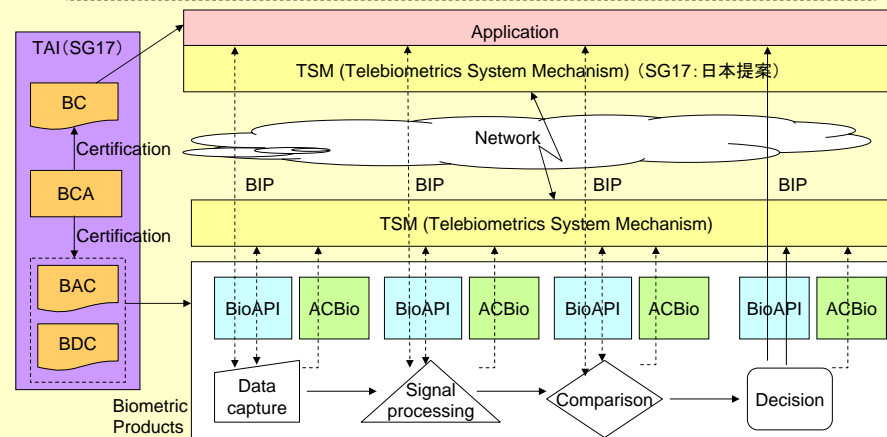
バイオメトリクスセキュリティに関する課題

- 脅威・攻撃分析と対策・評価
生体検知、IT技術応用、運用
- テンプレートプロテクション
キャンセルラブルバイオメトリクス、バイオメトリック暗号、非対称バイオメトリック認証
- 認証精度評価
評価用データベース、認証手段の相互評価
- バイオメトリクスセキュリティの啓発
バイオメトリクスに対するユーザの正しい理解
- 公的ルール、民間ガイドライン
プライバシー保護、脆弱性関連情報の管理と公開

36

Telebiometrics標準化課題の位置付け

- ・ ISO/IEC JTC1 SC27, SC37では標準プロダクト向けの仕様策定が目的。
- ・ オープンあるいはキャリアに跨った生体認証向けの標準策定はSG17課題8以外にない。
- ・ 研究段階の生体認証技術を利用した通信環境向けの提案への対処が急務。



BioAPI: Biometrics Application Program Interface, BIP: BioAPI Interworking protocol, ACBio: Authentication Context for Biometrics, TAI: Telebiometrics Authentication Infrastructure, BCA: Biometric Certification Authority, BC: Biometric Certificate, BAC/BDC: Biometric Algorithm/Device Certificate

37

磯部氏(日立製作所)講演資料

人を対象とする研究等倫理規程

(2006年8月14日規約第06-20号)

《所管：研究支援課長》

人を対象とする研究等倫理規程(2005年1月28日規約第04-44号)の全部を改正する。

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、1964年6月に開催された第18回世界医師会総会において採択されたヘルシンキ宣言の趣旨に鑑み、生存している人、胎児または死体から採取した臓器、組織、細胞、体液、血液、排泄物、タンパク質、DNA、DNA配列情報、動物性集合胚またはヒトES細胞その他ヒト(生物の種としての人をいう。以下同じ。)に由来する試料(以下「ヒト由来試料」という。)を利用した研究および実験(以下「研究等」という。)その他の人を対象とする研究等(以下「人を対象とする研究等」という。)について、研究等の対象となる者(以下「被験者」という。)の人としての尊厳および基本的人権を尊重し、人を対象とする研究等で取得される個人情報を保護し、ならびに人を対象とする研究等の被験者によるインフォームドコンセント(十分な説明に基づく自由な意思による同意をいう。以下同じ。)を得ることを徹底するとともに、本大学に隣接する地域住民の安全の確保のための措置および情報の積極的な開示を行うことを定め、人を対象とする研究等が倫理的、法的、社会的に適正に実施されることを確保することを目的とする。

(大学の責務)

第2条 大学および箇所長は、前条の目的を達成するために必要な措置を講じなければならない。

<http://www.waseda.jp/rps/LOCAL/hito/hitotetu.htm>